

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校ファースト学園金沢校
設置者名	理事長 林 直樹

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	情報システム科	夜・通信	82 単位	6 単位	
商業実務専門課程	情報ビジネス科	夜・通信	100 単位	6 単位	
文化・教養専門課程	グローバルコミュニケーション科 進学2年コース	夜・通信	0 単位	6 単位	※
	グローバルコミュニケーション科 進学1.5年コース	夜・通信	0 単位	4.5 単位	※
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://fcti.ac.jp/information/情報公開/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名 グローバルコミュニケーション科
(困難である理由) 日本語そのものの学習を目的とした学科のため実務経験のある教師の配置は困難。

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校ファースト学園金沢校
設置者名	理事長 林 直樹

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://fcti.ac.jp/information/情報公開/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	有限会社役員	2年	学校運営の透明性・ 公共性の確保
非常勤	有限会社役員	2年	学校運営の透明性・ 公共性の確保
非常勤	有限会社部長	2年	学校改革への助言
(備考)			

様式第 2 号の 2－②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第 2 号の 2－①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校ファースト学園金沢校
設置者名	理事長 林 直樹

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画書は、各授業科目について、担当教員と学科長が連携して授業計画書を作成する。カリキュラムポリシーに基づき、授業の方法、内容、到達目標、成績評価の方法、使用教材等を明記している。 授業計画書は学科長が最終確認・取りまとめ、年度内に確定する。 授業年度の授業開始前に学生へ公表する。	
授業計画書の公表方法	https://fcti.ac.jp/information/情報公開/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各授業科目において授業計画書に明記された成績評価基準に基づき、学修成果を厳格かつ適正に評価している。 評価方法は、定期試験、課題提出、小テスト、出席状況、授業態度などを組み合わせ、各教員がその科目の特性に応じて学修成果を総合的に判断している。 成績は5段階評価とし、可(60点)以上を単位認定の基準としている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価の客観性を高めるため、GPA制度を導入している。 各授業科目の評価は、秀(A:4.0)、優(B:3.0)、良(C:2.0)、可(D:1.0)、不可(F:0.0)とし、各学生の学修状況をGPAとして数値化している。 GPAは面談にて学生に通知している。また教員へのフィードバックを行い、評価方法を見直し成績評価の妥当性を維持している。 算出方法は、各科目の成績評価を秀(A:4.0)、優(B:3.0)、良(C:2.0)、可(D:1.0)、不可(F:0.0)のいずれかで決定し、下記の計算式で算出する。 $GPA = \frac{(4 \times A \text{ 修得単位数}) + (3 \times B \text{ 修得単位数}) + (2 \times C \text{ 修得単位数}) + (1 \times D \text{ 修得単位数})}{(\text{総履修単位数}(A \sim F \text{ を含む}))}$	
客観的な指標の算出方法の公表方法	書面（成績表、年度末に配布）
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業の認定は、当該学科・課程において定められた全課程を修了し、必要単位数を修得していること。 卒業認定は、担当教員による成績確認、出席状況、学修成果を総合的に判断し、卒業判定会議での確認を経て、校長の承認をもって認定する。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	学則（入学時に配布）

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校ファースト学園金沢校
設置者名	理事長 林 直樹

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://fcti.ac.jp/information/情報公開/
収支計算書又は損益計算書	https://fcti.ac.jp/information/情報公開/
財産目録	https://fcti.ac.jp/information/情報公開/
事業報告書	https://fcti.ac.jp/information/情報公開/
監事による監査報告（書）	https://fcti.ac.jp/information/情報公開/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		専門課程	情報システム科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	86 単位	22 単位	68 単位	2 単位	0 単位	0 単位	
			92 単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
40 人		38 人	4 人	3 人	9 人		12 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業方法は、プロジェクターや ICT 教材を活用した講義に加え、グループワークや実習等も取り入れている。 職業に必要な知識・技能を体系的に習得できるよう、基礎科目から応用・実践科目まで段階的に配置している。 年間の授業計画は、前期・後期の2学期制で構成し、各科目の到達目標に基づいた授業計画書を作成している。
成績評価の基準・方法
（概要） 成績評価は、各科目で定めた評価基準に基づき、試験、課題提出、小テスト、授業態度など複数の観点から判定している。 評価方法と配点比率は授業計画書に明示している。 可以上を合格基準とし、GPA 制度を活用して学修成果の数値的把握を行っている。
卒業・進級の認定基準
（概要） 所定の科目を履修し、必要な単位数を修得したうえで、学則に定める出席要件（出席率 80%以上）および学修成果（成績評価）を満たしていることを要件としている。 進級・卒業の判断は、卒業・進級判定会議での判定を経て、校長が最終認定を行って

いる。
学修支援等
(概要) 学生が自律的に学び、必要な知識・技能を確実に修得できるよう、様々な学修支援体制を整えている。 授業外学修の支援として、補習授業、個別指導、教員による学修相談を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)	11 人 (73.3%)	4 人 (26.7%)
(主な就職、業界等) 主な就職先は、IT 業界、製造業に属する企業や団体。			
(就職指導内容) 就職指導のキャリア支援専任担当者および担任が連携して、学生一人ひとりに対して就職支援を実施している。 1 年次からのキャリアガイダンス、履歴書・自己 PR 指導、模擬面接、インターンシップ、求人情報提供、企業説明会などを通じ、段階的な就職活動の支援を行っている。 また卒業生によるガイダンスの実施、地元企業との連携による説明会やセミナーなども実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) Microsoft Office Specialist (Word, Excel, PowerPoint) や IT パスポート、Web クリエイター、ビジネス能力検定ジョブパス、ビジネス文書検定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
40 人	2 人	5.0%
(中途退学の主な理由) ・進路変更による就職希望		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・オープンキャンパスで分かりやすく学科説明し、入学後のミスマッチを低減。 ・担任制を導入し、定期的な面談を通じて学業状況や生活面の悩みを早期に把握。 ・欠席・成績不振者に対して、個別面談や学修サポートを実施。 ・メンタル面の支援として、校内カウンセラーによる相談を実施。 ・中退希望者には進路相談や再進学のご案内を実施し、安易な中退を防止。		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
商業実務		専門課程	情報ビジネス科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2 年	昼	111 単位	85 単位	24 単位	2 単位	0 単位	0 単位	
			111 単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
40 人		34 人	30 人	3 人	9 人		12 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業方法は、プロジェクターや ICT 教材を活用した講義に加え、グループワークや実習等も取り入れている。 職業に必要な知識・技能を体系的に習得できるよう、基礎科目から応用・実践科目まで段階的に配置している。 年間の授業計画は、前期・後期の 2 学期制で構成し、各科目の到達目標に基づいた授業計画書を作成している。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 成績評価は、各科目で定めた評価基準に基づき、試験、課題提出、小テスト、授業態度など複数の観点から判定している。 評価方法と配点比率は授業計画書に明示している。 可以上を合格基準とし、GPA 制度を活用して学修成果の数値的把握を行っている。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 所定の科目を履修し、必要な単位数を修得したうえで、学則に定める出席要件（出席率 80%以上）および学修成果（成績評価）を満たしていることを要件としている。 進級・卒業の判断は、卒業・進級判定会議での判定を経て、校長が最終認定を行っている。	
学修支援等	
（概要） 学生が自律的に学び、必要な知識・技能を確実に修得できるよう、様々な学修支援体制を整えている。 授業外学修の支援として、補習授業、個別指導、教員による学修相談を実施している。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5 人 (100.0%)	1 人 (20.0%)	4 人 (80.0%)	0 人 (0.0%)
（主な就職、業界等） 貿易、サービス業、製造業に属する企業			

(就職指導内容) 就職指導のキャリア支援専任担当者および担任が連携して、学生一人ひとりに対して就職支援を実施している。 1 年次からのキャリアガイダンス、履歴書・自己 PR 指導、模擬面接、インターンシップ、求人情報提供、企業説明会などを通じ、段階的な就職活動の支援を行っている。 また卒業生によるガイダンスの実施、地元企業との連携による説明会やセミナーなども実施している。
(主な学修成果（資格・検定等）) Microsoft Office Specialist (Word, Excel, PowerPoint) やサービス接遇、ビジネス文書検定
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26 人	0 人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・オープンキャンパスで分かりやすく学科説明し、入学後のミスマッチを低減。 ・担任制を導入し、定期的な面談を通じて学業状況や生活面の悩みを早期に把握。 ・欠席・成績不振者に対して、個別面談や学修サポートを実施。 ・メンタル面の支援として、校内カウンセラーによる相談を実施。 ・中退希望者には進路相談や再進学のご案内を実施し、安易な中退を防止。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	グローバルコミュニケーション科 進学 2年コース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	92単位	92単位	0単位	0単位	0単位	0単位
			92単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		62人	61人	3人	6人	9人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
(概要) 授業方法は、講義、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイのほか、タスクベースや ICT を活用したもの等、多様に取り入れている。 年間の授業計画は、前期・後期の 2 学期制で構成し、各科目の到達目標に基づいた授業計画書を作成し、学生に提示している。

成績評価の基準・方法
（概要） 成績評価は、各科目で定めた評価基準に基づき、定期試験、課題提出、小テスト、授業態度など複数の観点から判定している。 評価方法と配点比率は授業計画書に明示している。 可（60 点）以上を合格基準とし、GPA 制度を活用して学修成果の数値的把握を行っている。
卒業・進級の認定基準
（概要） 所定の科目を履修し、必要な単位数を修得したうえで、学則に定める出席要件（出席率 80%以上）および学修成果（成績評価）を満たしていることを要件としている。 進級・卒業の判断は、卒業・進級判定会議での判定を経て、校長が最終認定を行っている。
学修支援等
（概要） 学生が自律的に学び、必要な知識を確実に修得できるよう、様々な学修支援体制を整えている。 授業外学修の支援として、補習授業、個別指導、教員による学修相談を実施している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
27 人 (100.0%)	24 人 (88.9%)	0 人 (0.0%)	3 人 (11.1%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 基本的に進学コースなので、就職指導は行っていない。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語能力試験 N2 以上の合格及び高等教育機関への進学に必要な知識とスキルの習得。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
53 人	2 人	3.8%
（中途退学の主な理由） ・就職 ・家庭の事情		
（中退防止・中退者支援のための取組） ・個別面談や学修サポートを実施。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化・教養		専門課程	グローバルコミュニケーション科 進学 1. 5年コース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1.5 年	昼	70 単位	70 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位
			70 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		16 人	15 人	3 人	6 人	9 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 授業方法は、講義、ペアワーク、グループワーク、ロールプレイのほか、タスクベースや ICT を活用したもの等、多様に取り入れている。 年間の授業計画は、前期・後期の 2 学期制で構成し、各科目の到達目標に基づいた授業計画書を作成し、学生に提示している。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 成績評価は、各科目で定めた評価基準に基づき、定期試験、課題提出、小テスト、授業態度など複数の観点から判定している。 評価方法と配点比率は授業計画書に明示している。 可（60 点）以上を合格基準とし、GPA 制度を活用して学修成果の数値的把握を行っている。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） 所定の科目を履修し、必要な単位数を修得したうえで、学則に定める出席要件（出席率 80%以上）および学修成果（成績評価）を満たしていることを要件としている。 進級・卒業の判断は、卒業・進級判定会議での判定を経て、校長が最終認定を行っている。	
学修支援等	
（概要） 学生が自律的に学び、必要な知識を確実に修得できるよう、様々な学修支援体制を整えている。 授業外学修の支援として、補習授業、個別指導、教員による学修相談を実施している。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9 人 (100.0%)	8 人 (88.9%)	1 人 (11.1%)	0 人 (0.0%)
（主な就職、業界等） 食品会社			

(就職指導内容) 基本的に進学コースなので、就職指導は行っていない。
(主な学修成果(資格・検定等)) 日本語能力試験 N2 以上の合格及び高等教育機関への進学に必要な知識とスキルの習得。
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25 人	0 人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・個別面談や学修サポートを実施。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
情報システム科	150,000 円	600,000 円	550,000 円	施設設備費、教材購入費
情報ビジネス科	150,000 円	550,000 円	350,000 円	施設設備費、教材購入費
グローバルコミュニケーション科	100,000 円	564,000 円	140,000 円	施設設備費、教材費、保険料、学生生活動費
	円	円	円	
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://fcti.ac.jp/information/情報公開/
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)

学校関係者評価委員会議を年 2 回実施。 委員は、高等学校、地域住民、関係業界、保護者、卒業生等の学校関係者から選任規定に基づき選任し「学校関係者評価」を実施する。 次年度の運営計画に反映させ、計画に沿って改善を行う。 主な評価項目は、重点目標に関する評価、教育理念・目標、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の受入れ募集、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献等。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
第一学園高等学校金沢キャンパス	2 年	高等学校
北安江町在住	2 年	地域住民
株式会社 C 8 L I N K	2 年	関係業界
情報システム科学生父	2 年	保護者
平成 31 年情報システム科卒業	2 年	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://fcti.ac.jp/information/情報公開/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://fcti.ac.jp
--